

第10回「役割について考える」(2011/6/18)

場所：青山アーキテクトカフェ

司会、文責：野田

参加者：15人

要約：役割は何か、役割にまつわる苦しさについて主に議論しました。役割のポジティブな側面についても議論しました。

お題の説明：第6回で、大人は役割を果たすとの意見がありました。「役割」は重い言葉です。考慮するに値すると考え、取り上げて見ました。

内容：

1. 役割とはそもそも何か

- ・ ~としての役割。
- ・ 役割には言葉が対応する。母親としての役割とか。
- ・ 役割は差異化する側面がある。
- ・ 自覚している役割と、そうでないものがある。自覚している役割が多い。
- ・ 自覚しない役割の例1：毎日働いていても、働く役割と言うものを毎日自覚するわけではない。
- ・ 自覚しない役割の例2：本人が気づかずに身近な人に癒しを与えていて、癒されている人からは、癒す役割を果たしている。
- ・ 役割には義務と責任がある。
- ・ 役割とは、会社やサークルなどの、組織や団体が、何かを実行する、運営する、維持するために、行動を割り振るためにある。
- ・ キリストとベタニアのマリアとマルタ：マルタはキリストをもてなすために働いていた。マリアはキリストの話聞いていた。マリアに手伝うよう、言って欲しいと、マルタがキリストに頼むと、キリストは、マリアは役割を果たしていると答えた。役割は、本人がこういうものだと思っている側面と、他人から承認されるという側面がある。
- ・ 場の雰囲気とか、周りの要求とかを認識して定まる。勝手に思い描かれている役割とかがある。お互いの関係性で決まる。
- ・ 役割についての共通理解が出来ていないと上手くいかない。共通理解を作るための想像力が必要。
- ・ 「外から」「与えられる」もの。
- ・ 役割という外のものによって、内側が影響を受け、外とうちが混じりあう。切り分け出来ないのでは。
- ・ 家族、男女間、子供に対する大人の役割がある。
- ・ 性や親子関係など、与えられるものではなく、決まってしまうものがある。
- ・ 人類の役割は人類が決めている。
- ・ 自分の人生の主人公は自分であって、自分の役割は自分で決める (by 会長)。

- ・ 無人島で一人で生活しながら、植物を育てているとしたら、その役割は自分で決めている。他人に対する義務や責任はない。
- ・ 役割にはフィクション性やストーリー性がある。
- ・ 役割は、社会的にこうあるべきだというもの。
- ・ 社会に参加する上で役割がある。生まれると社会の中で生きていく中で役割が与えられる。
- ・ 社会そのものが一つのストーリーである。
- ・ 社会はない by 池田晶子。
- ・ コミュニケーションをする上で個人個人に役割がある。
- ・ 椅子など、ものにも役割がある。物の性質や形状に起因する機能に対応する。ものの役割には義務や責任はない。
- ・ こどもが、コップをウサギに、椅子を象に見立てて遊んでいるとき、コップや椅子の役割は、もともとの機能には対応しない。
- ・ 死者の役割のように、既に存在していない人、ものの役割がある。死んだ人を思い描くことで得るものがある。

2. 役割と類似する概念との比較

- ・ 役割に対応する英語は **part** と **role** がある。**part** は分業、分担、一部であり、目的が定まっており、機能を細分化した一部分である。**role** は演劇における役柄。目的以外の、人格的な要素は、**part,role** の両方の言葉に含まれる。
- ・ 分担をだれが決めるかという問題がある。
- ・ 役割には義務と責任が含まれる。同様に義務と責任が含まれるように思われる契約と、役割は異なる。
- ・ 役目という言葉があるが、役割よりも義務的だ。
- ・ 役割という言葉は好きではないが、使命は好きだ。両者には何かが違う。
- ・ アメリカでは金持ちは寄付をしないといけない、義務のようなものが発生する。

3. 役割は見方によって変わる

- ・ 椅子の役割は座ることである。芸術として、椅子の座る部分に剣山のようなとげとげしいものをおいて、椅子の役割を否定することそのものが芸術的であった場合、芸術としてみたら、その椅子は役割を果たしているが、芸術と知らなかったら、椅子は役割を果たしていない。
- ・ ジゴロ、ヒモのような男が女性に養われているとして、その男は世間的な常識からは役割を果たしていないように見えるが、女性が、その男がいるから、心底頑張れて、しかもそうすることが幸せなら、役割を果たしているかもしれない。

4. 役割は重要か

- ・ 人間が生きると言うことそのものが重要であって、生きる目的はない。従って役割と言うものはその観点からは重要ではない。

- ・ とはいうものの、役割を果たして、金を稼がないと食っていけない。

5. 役割の苦しさ

※特に苦しさについて誘導する意図はなく、会話の中で、自然に役割の苦しさがテーマに上がってきました。以下の対話では、役割が苦しいということが前提です。しかし、個人的には、役割は苦しいものである、というのが一般的な認識であるとは思っていなかったもので、意外でした。

- ・ 自覚している役割と、与えられた役割にギャップがあるとスムーズに運ばないため、つらい。
- ・ 役割と、自分の気持ちにずれがあるとつらい。
- ・ 自分を位置づけるのが難しい。
- ・ 無言の圧力。
- ・ 役割から逃げようとする。役割は負担を強いる。
- ・ 社会的な役割は逃れられない。社会から切り離されると生きていけないから。
- ・ 自分自身から逃れられない。
- ・ 選び取る、決めるのは自分のはずだから、自由があるはずである。

6. 役割のポジティブな側面

- ・ 役割を通して、繋がっている。
- ・ 引きこもっていても社会とつながっていたいので、ネットやゲームをする。そうすることで社会の中で安住することが出来る。
- ・ 社会や組織や人間関係などがスムーズに行くには、責任や義務がついて周るが、一人ひとりが役割を果たすことで、上手くいく。
- ・ 役割の類似概念である使命は、周りから与えられているから、困難を乗り越えられる。

どれも削るのが惜しいような、素晴らしい指摘のため、まとめが三千行弱の大作になってしまいました。参加者の方々が、それぞれの立場で、幅広い観点から役割と言う概念についてお考えになったと感じました。又、色々な考えを対比し、違いや共通性、関連性を探ることが出来たと感じました。役割が重い原因は、見方によって変わる様な曖昧さを持ち、自覚することが当たり前であるとされるため、過剰に反応してしまうことにあるのかもしれない。

補足. 哲学は無用の物か

- ・ 参加者から、「哲学は無用のものを論ずるものと思っていたが、役割を論ずるのはいいのか」といった質問が飛び出てきました。無用のものを論ずるは無用ではないとか、無用のもの以外を論じてもいいなどとヒートアップしました。司会者は哲学に関して素人ですので、恐縮ですが、きちんとお答え出来ませんでした。何が哲学で、何が哲学で

ないか、専門家の方お教えてください。

- 別の参加者から、懇親会の席上、哲学とはもともと希哲学という言葉が用いられ、知を愛する、考えることを愛するといった意味であるとの指摘がありました。
- さろん哲学の「哲学」は、個人的には希哲学の哲学だと考えておりますが、「希哲学」という用語の意味、哲学史上での位置づけについて知識が不足しておりますので、確かなことは分かりません。なにせよ、参加者の方がじっくりと考えていただける場を提供することが重要だと考えております。